「上野の杜から（23）」

冬牡丹と寒牡丹

強い寒気団が南下してくると上野の山も乾いた冷気に包まれ、自然の冷蔵庫と化します。都内有数のサクラの名所として知られる上野公園ですが、さすがにこの季節は花の色香には乏しいものがあります。

そうは言っても、そこは天下の上野の杜・上野公園です。花々をこよなく愛する方は、上野東照宮の境内に足を一歩踏み入れてみてはいかがでしょうか。

東照宮の鳥居をくぐると、すぐ左側に「ぼたん苑」の入口があります。今回のお目当てはこちらです。

この「ぼたん苑」は徳川家康を御祭神とする上野東照宮の敷地内に1980年4月、日中友好を記念して開苑されました。ちなみに中国の国花は牡丹です。

今の時季、40品目160株ほどの牡丹を見ることができます。華麗なる牡丹の花もさることながら一株ごとに、わらぼっち（藁囲い）とよばれる霜や雪をよける囲いに目がとんでしまいます。

先人たちの知恵と申しましょうか、わらぼっちには保温性、防水効果、通気性など藁のもつ長所が生かされています。そして、太陽光を取り入れるため南側はあけてあります。

中をのぞくと誇らしげに咲く牡丹が見られるわけですが、注意してみると葉のしっかりついている花とそうでないものとがあるのに気づきます。



前者は冬牡丹とよばれています。牡丹は元来4月下旬から5月が見頃なのですが、冬牡丹は温度管理等栽培技術を駆使して春だと思わせて咲かせたものです。



葉のほとんどない方は寒牡丹とよばれています。牡丹自身が寒いことを承知のうえで咲くのだそうです。花を咲かせるために全力投球をするので葉などはつけないのだとのことです。

春の足音はもうそこまでやっては来ていますが、時折り気まぐれな寒波は襲って来ます。晴れた日など「ぼたん苑」をのぞき、どれが冬牡丹で、どれが寒牡丹か見分けるのも一興かと思います。

苑内では黄色い花を咲かせるマンサク、ロウバイ、ミツマタなどを目にすることが出来ます。さらに、しだれ梅、紅梅、河津桜なども楽しめます。

ソメイヨシノが咲き誇る春爛漫の時とは異なる一足、二足早い春の世界がここにはくりひろげられています。これも上野の山の魅力でしょうか。